

規格特性

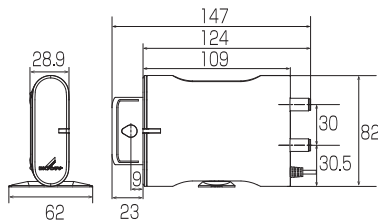
*規格は改良により、予告なく変更させていただくことがありますのでご了承ください。

型番	TCF30S	
使用帯域	CATV下り	CS/BS-IF
周波数帯域 (MHz)	70~770	1032~3224
標準利得 (dB)	28	22/1032MHz
		27/3224MHz
定格出力 (dBμV)	95(74波)	95/1032MHz
		100/3224MHz(50波)
入力 A T T (dB)	0~-15以上(連続可変)	0~-10以上(連続可変)
入力 E Q (dB)	0,-6/-10(70MHz値)	-
雑音指数 (dB)	6以下	6以下
入出力インピーダンス (Ω)	75(F形)	
V S W R	2.0以下	2.5以下
電源/消費電力 (V/W)	AC100(50/60Hz)/3.5	
使用温度範囲 (℃)	-10~+40	
質量 (kg)	0.27	

外形寸法図

(単位:mm)

スタンド使用時



*この製品を処分するときは、地方自治体のルールにしたがって処理してください。

TCF30S

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。

2K4K8K

HS JEITA

高シールド

2K・4K・8K放送対応 **光テレビ専用**
CS/BS・CATV下りブースター (卓上用)

CATV下り70~770MHz 増幅用
CS/BS-IF 1032~3224MHz 増幅用

屋内用

CATV下り 30dB形

CS/BS 30dB形

TCF30S

安全上のご注意

お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		抜取り指示		接触禁止		一般的な禁止事項		指示を守る
--	----------	--	---------	--	-------	--	------	--	----------	--	-------

警告 この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 設置やお手入れ、点検をする際は、次のことに注意する**
- ◆製品を分解・改造しない
感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。
 - ◆表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。
 - ◆本製品は屋内専用です。製品内部に水が入った場合や、落として破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜く
そのまま使用すると火災や感電の原因となります。お買い上げの販売店にご相談ください。

- 雷が鳴り出したら本体やケーブルに触れない**
感電の原因となります。

- 電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む**
ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。

- 本製品を以下の場所に設置しない**
変形や火災、感電など事故の原因となり、製品寿命が短くなることがあります。
- ◆直射日光の当たる場所
 - ◆放熱機能のないボックス内
 - ◆屋外・風呂場・洗い場・水がかかる場所
 - ◆湿気やほこりの多い場所
 - ◆調理台や加湿器のそばなど高温になる場所
 - ◆油煙や湯気があたる場所

- ケーブルに無理な力を加えたり傷つけない**
- ◆電源コードや同軸ケーブルを損傷、無理な曲げ、ねじり、加熱(熱器具に近づけたり)、重いものをのせたり、引っばったりしない
接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあり損傷すると火災や感電の原因となります。ケーブルが傷んだときはお買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
 - ◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。

- 異常があるときは、すぐに使用をやめる**
次のような異常時は、この製品に接続している機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または当社カスタマーセンターに連絡してください。
- ◆煙がでる、においがする
 - ◆内部に水や物が入った
 - ◆外部が劣化
- 火災、感電、けが、故障の原因となります。

- 以下の場所に設置しない**
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。
- ◆強度の弱い場所
 - ◆不安定な場所
 - ◆ぐらつきたり振動したりする場所
 - ◆傾いた場所

- 本製品を密閉した場所で使用しない**
熱がこもり、故障の原因となります。

2K4K8K 2K・4K・8K放送対応マークは、BS・110度CSにて既に放送されている2K放送と4K・8K放送(新4K8K衛星放送)に対応した機器(3224MHz)であることを示します。

HS JEITA

HSマーク(ハイシールドマーク)は、一般社団法人 電子情報技術産業協会が審査・登録され、衛星テレビジョン放送の中間周波数帯域において、一定以上の選べい性能を有する機器に付与されるシンボルマークです。

高シールド

高シールドマークは、携帯電話や各種無線サービスなどの電波干渉を抑制するため、厳しい社内基準を基にシールド性を高めた製品であることを示します。

製品に関するお困りごとを解決!

Dサポ!

スマートフォンで各種設定方法がわかる→

ホームページでも初期設定や、各種端末の詳しい手順を確認できます。QRコードからアクセスしてください。

保証書

●**無料修理規定** ※本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管ください。

- 本保証書は、お買い上げから下記保証期間内に故障した場合、無料修理規定により、当社が責任をもって無料修理を行なうことをお約束するものです。(消耗部品は除く)したがって、この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な場合は、お買い求めの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにお問い合わせください。なお、商品を直接当社へ送付した場合は送料などはお客さまのご負担とさせていただきます。また、保証期間経過後の修理についても、お買い求めの販売店、当社営業所またはカスタマーセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
- 保証期間中、取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い求めの販売店を通じて無料修理いたしますのでお申し付けください。
- 次のような場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ①ご使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
 - ②お買い上げ後の取り付け場所の移設、輸送、落下などによる故障および損傷。
 - ③火災、地震、噴火、洪水・津波などの水害、落雷、その他の天変地異、戦争・暴動による破壊行為、公害、塩害、ガス害、ねずみや昆虫、鳥など動物の行為による損傷、指定以外の使用電源(電圧、周波数)や異常電圧による故障および損傷。
 - ④塗装の色あせなどの経年劣化や、使用に伴う摩擦などにより生じる外観上の現象。
 - ⑤用途以外(例えば車向、船舶への搭載など)に使用された場合の故障および損傷。
 - ⑥本保証書を提示・添付されていない場合。
 - ⑦本保証書にお買い上げ年月日、お客様名、お買い求めの販売店の記入のない場合、または字句を書き換えられた場合。
- 製品対価以上の保証はいたしません。
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。(This Warranty is valid only in Japan.)
- 期間中の転居、贈答品、その他の理由によりお買い求めの販売店に修理が依頼できない場合には、当社カスタマーセンターまたは当社営業所にご相談ください。
- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただきます場合がございますので、ご了承ください。

型番 TCF30S	お買上年月日 年 月 日	保証期間 お買上日から 1 年間
ご住所・ご店名 ご販売店 電話()	お名前 お客様 ご住所 電話()	ふりがな 様

カスタマーセンター **0570-033-083** (1908)

※全国一律料金でご利用いただけます。
※携帯電話・PHSからもご利用いただけます。
※ナビダイヤルは各社音声通話定額サービスの対象外となっております。

■ 受付時間 9:30~17:00 (夏季・年末年始休暇は除く)
■ 一部のIP電話で上記番号がご利用にならない場合: 050-3818-9016

ホームページアドレス
<https://www.dxantenna.co.jp/>

DXアンテナ株式会社 5241-2

お取扱いの前に

- 光テレビやマンション共同受信より配信される新4K8K衛星放送をご覧いただく場合は、4K・8K放送対応のチューナーまたはテレビが必要です。また3224MHzまで対応した同軸ケーブルや機器を使用してください。
- その他、ケーブルテレビ局より配信される有料番組などを視聴する場合は、専用のセットトップボックスが必要となる場合があります。詳しくはご加入のケーブルテレビ局へお問い合わせください。
- 電源電圧はAC100V 50/60Hz専用です。指定された電圧以外では使用しないでください。
- 本製品はブースター用電源部ではありません。
- 本製品は光テレビなどのケーブルテレビ受信設備でご使用ください。アンテナ直接受信の環境には適していません。
- 電子部品の放熱作用により筐体は熱を持ちますが、異常ではありません。



ブースターは正しくお使いください。

ブースターは信号を増幅する機能上、正しく取り付けないと、自分の家やご近所のテレビの映りが悪くなる場合があります。

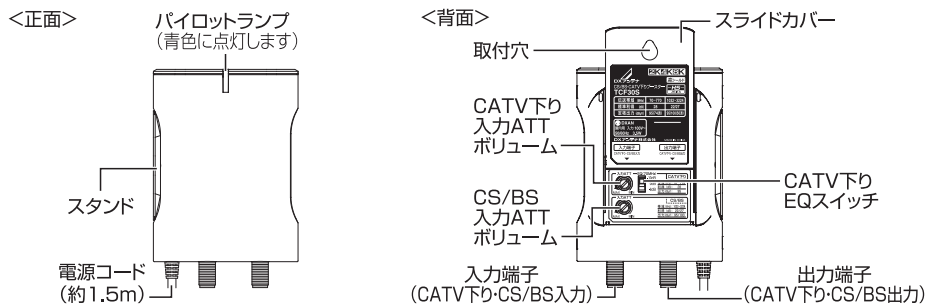
- 入力端子・出力端子の配線は、取扱説明書に従い確実に行なう
- 配線には必ず同軸ケーブルを使う
- 入力側と出力側のケーブルは、束ねたりブースターに巻きつけない

ブースターを正しく使用しないと、ブースター内で増幅された出力信号が正常にテレビへ送られず、また出力信号の一部が入力側に逆戻りして、発振(妨害電波を発生する現象)を起こすことがあります。一台のブースターが発振を起こすと、ご近所の数十台、数百台のテレビの映りが悪くなる場合があります。

設置後のお取扱いについて

- 通常は電源プラグを抜かないでください。テレビが映らなくなります。
- この製品はご加入のケーブルテレビ局により適正に調整されていますので、カバーを開けたり、スイッチやボリュームにふれないでください。
- この製品の移動を行うときは、必ずご加入のケーブルテレビ局に依頼してください。
- 使用時、異常が生じた場合はただちに電源プラグを抜き、ご加入のケーブルテレビ局に連絡してください。

各部の名称

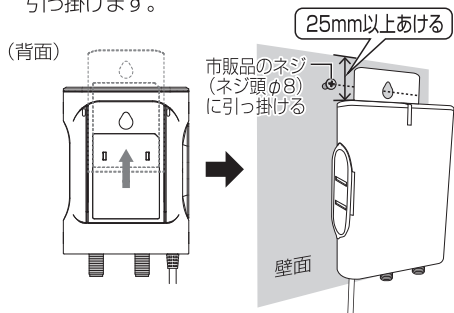


設置方法

スタンドを使用するか壁に取付けて設置することができます。また市販のバンドを使用して取付けることもできます。

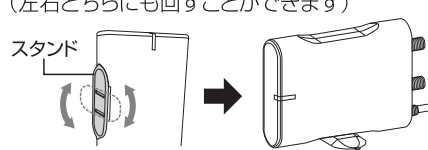
<壁に取付けるとき>

スライドカバーを上を押上げて、取付穴に引っ掛けます。



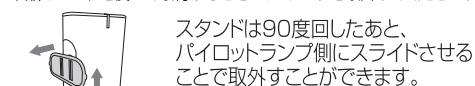
<スタンドを使用するとき>

スタンドを90度回して置いてください。(左右どちらにも回すことができます)



<スタンドの取外し方>

市販のバンドを使って取付けるときは、スタンドを取外してください。

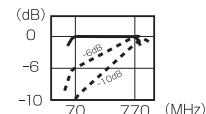


設定方法

CATVおよびCS/BSをそれぞれ調整・確認してください

調整の仕方

EQスイッチ



入力波形が傾斜している場合に波形がフラットに近づくように-6/-10dBで補正できます。CATV下り入力EQスイッチを-10dB側にスライドすると770MHzを基準に70MHzの利得が-10dB減衰します。(出荷時:-10dB)

入力ATTボリューム



CATV下り:約-15dB
CS/BS:約-10dB

MINからMAXまで連続で調整できます。利得調整ボリュームは反時計方向いっぱいへ回しきった時、減衰量最大となります。出力端子にレベルチェッカーなど(電界強度測定器など)を接続しこのボリュームによりレベルを合わせてください。(出荷時:MAX)

CATV下り帯域の調整

<調整の流れ>

手順1

入力信号レベルの確認



手順2

ケーブルの接続



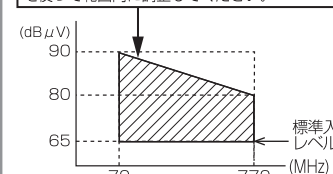
手順3

出力信号レベルの調整

■手順1：入力信号レベルの確認



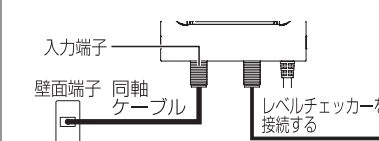
入力レベルが下記の範囲内であることを確認してください。
 [斜線]はEQスイッチと入力ATTボリュームで調整できます。
 [斜線]を超える場合は、外付けアッテネーターなどを使って範囲内に調整してください。



※デジタル放送波の場合は、-10dBしてください。

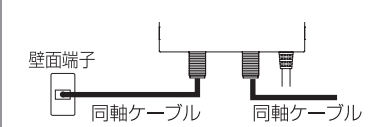
■手順2：ケーブルの接続

入力端子にCATV幹線側から接続する。



■手順3：出力信号レベルの調整

出力レベルが95dB μ Vを超えないように、EQスイッチ/入力ATTボリュームで調整してください。



CS/BS-IF帯域の調整

※新4K8K衛星放送を見るためには、4K・8K放送に対応したケーブルおよび壁面端子が必要です。

<調整の流れ>

手順1

入力信号レベルの確認



手順2

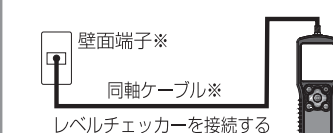
ケーブルの接続



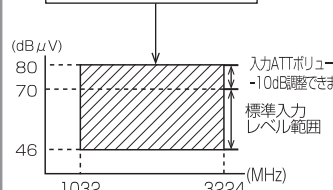
手順3

出力信号レベルの調整

■手順1：入力信号レベルの確認

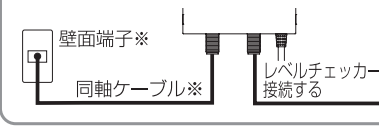


入力レベルがこの範囲内であることを確認してください



[斜線]を超える場合は、外付けアッテネーターなどを使って範囲内に調整してください。

■手順2：ケーブルの接続



■手順3：出力信号レベルの調整

測定ポイントについて…
 1032MHz～3224MHzまでの各チャンネルの出力レベルを確認してください。

出力レベルが95/100dB μ V(1032/3224MHz)を超えないように入力ATTボリュームを調整してください。

調整完了後にテレビに接続する
 出力端子に接続しているレベルチェッカーを外し、テレビ側の同軸ケーブルを接続します。